

非核平和の輪をひろげよう

第一回秋田県非核平和サミットを当市で開催

十二月二日、当市を初め秋田県内で非核平和宣言をした市町村の代表が中央公民館に集まり、「秋田県非核平和宣言自治体連絡協議会」を設立し、第一回秋田県非核平和サミットが開かれました。そして宣言自治体間の協力による恒久平和の推進と、核兵器廃絶平和宣言を各市町村へ呼びかけていくことを決議しました。

秋田県内で非核平和宣言をした市町村は、五十八年十二月当市が東北地方で初めて宣言をして以来、今年十月末までに八市二十四町二村までに増えています。

そこで、国際平和年の今年、県内の宣言をしている自治体がお互いに手をつなぎ協力体制を確立し、地域住民の生活と生命を守るための恒久平和を実現させようと、当



▲19市町村が参加した非核平和サミット

市や横手市などが発起人となって県内の各市町村に呼びかけました。

十二月二日、十九市町村が参加して「秋田県非核平和宣言自治体連絡協議会」の設立総会が当市で開催されました。総会では、会則や事業計画の審議、役員を選出が行われ、初代会長には畠山大館市長、副会長には木村小坂町長と西成十文字町長が決まりました。

引き続き開かれた協議会の初事業「秋田県非核平和サミット(首長会議)」では、「非核平和運動を行政にどう生かすか」をテーマに話し合いが行われました。この中で当市の平和憲法記念講演会や日中友好事業、横手市の新成人広島派遣事業、本荘市の平和都市づくりシンポジウムなど各市町村の取り組み状況や非核平和宣言に至るまでの経過、そして自治体における平和運動の推進について活発な意見交換が行われました。最後に恒久平和の実現に向けて、核兵器廃絶平和宣言の輪を県内、外の自治体へ広げていくことを決議して終了しました。

雪沢と新沢保育所を統合

雪沢保育所が完成



市では、年次計画で老朽化している保育所の改築を進めていますが、今年度は雪沢保育所と新沢保育所を統合した新「雪沢保育所」を建設し、今月5日に完成しました。

新園舎は、雪沢小・中学校の隣りに4,800万円で建設したもので、建物は明るいクリーム色の平屋建て、床面積387㎡、保育室(2室)や遊戯室、午睡室などが配置されており、30人の子供たちを保育することができます。

そして15日からは新園舎で保育が始まり、子供たちは明るく広い遊戯室を元気よく走り回っていました。



田町～栄町間に歩道

田町～栄町間に歩道が完成し、歩行者は安心してショッピングや通勤通学できるようになりました。

完成した歩道は、北秋田土木事務所が県道大館十和田湖線、交通安全施設整備事業として今年四月から四千四百万円で工事していたもので、延長五百m、幅二・五mの歩道が道路の両側に設けられました。

市長の対話ノート

恒久平和こそ



No.145

不幸にして子供同志が、いや大人同士で腕力の伴う喧嘩にまでなったら、当事者はもちろんのこと、親や身内もつい負けるな、勝つまでやれという気持ちになってしまいがちです。

戦争だって同じでしょう。負け戦はするな——それは鉄則みたいなものではないでしょうか。

与謝野晶子の詩に「君死にたまふことなかれ」というように、「当時の戦は戦場で死ぬな」てよかったです。しかし今日の戦いは、ボタン一つ押すことで戦争は始まり、戦場も銃後もありません。ミサイルで核で大量虐殺、地球滅亡へとつながるのです。

こんな不幸をなくすために、今自分は何か出来るでしょうか。そんなことは国がすること自分には関係ないといえるでしょうか。

県内の半分の自治体が「非核平和宣言」をし、県民八〇%がその中で生活しています。宣言をしたことは「自分の自治体には武力がありません。今後もちません」。つまり丸腰宣言をしたことです。このことを確認し恒久平和のために自治体のやれること、やらねばならないことは何か、話し合ったのが「非核平和サミット」でした。

改めて平和の尊さを確認し合い、ねばり強い運動を進めて行くことを誓い合った有意義なサミットでした。

恒久平和